

**令和4年度
学校評価書(中間期)**

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和4年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合							
													0	50	90					
I よりよく生きる力を育む指導の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向け、早期発見・早期解決できる集団づくりが実践されている。	中間期 A	◇肯定が生徒9割、教職員10割と目標値に達しているため、評定をAとした。しかし、生徒の回答に1や2の評価があるので、まだ十分とは言えない。今年度新規の不登校生徒はいないが、昨年度から引き続いていない不登校生徒もいるため、家庭と連携しながら粘り強く対応していく必要がある。	生徒2-4	57	34	6	2	0	92								
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定		◆これまでの取り組みを継続していく。特に、毎月の「学校生活アンケート」や学級担任等学年部を中心とした見守り、教育相談を中心に実態把握と個別の対応をしていく。また、養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携した相談体制を整え、生徒や家庭の不安を取り除いていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報 ・生徒指導部会														
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒同士が「違いを認め合う」人間関係を構築し、楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇生徒、保護者、教職員とも目標値に達しているため、評定をAとした。修学旅行をはじめとした各行事や部活動等においても、思いやりのある行動や協力する姿勢が多く見られた。しかし、生徒、保護者とも回答に1や2の評価があるので、引き続き丁寧な指導や人間関係の構築が必要である。	生徒1-1	48	41	10	1	0	89								
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定		◆2学期は、体育祭や文化祭等の行事が多いため、より良い人間関係づくりの大切な機会と捉え取り組んでいく。また、教職員も積極的に生徒と共に活動することで、信頼関係を構築していく。また、学校生活アンケートや教育相談で出てきた課題についても丁寧に対応し、個々の生徒に寄り添っていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート														
	③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定しているため、評定をAとした。生徒総会で出された意見や決定事項が実現できていることや、修学旅行(3年生)や集団宿泊研修(1年生)での主体的な活動が、生徒の達成感に繋がっていると考えられる。教職員の肯定が一番高く10割である。生徒が生徒会活動や学校行事に前向きに取り組んでいる姿が見受けられたと考えられる。	生徒1-12	48	39	10	3	0	87								
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定		◆企画会・職員会等で教職員が事前に話し合い、計画案を立てることで、生徒の主体的な活動を支える体制を整えていく。2学期には大きな学校行事が複数あるので、否定的意見の3%の生徒が、自分たちで学校行事を盛り上げたという達成感を味わうことができるように、生徒会執行部を中心としたリーダーの育成に努める必要がある。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート														

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 約1割が1や2の評価であることを重く受け止め、状況の変化に対応しつつ、更なる指導及び早期発見・早期解決に努めてもらいたい。一つの方法として、学習端末として使用しているクロームブックを活用して、目安箱のようなことを考えるのはどうか。
- 学校に足が向かない生徒に関しては、多角的なアプローチと丁寧なケアが必要となる。生徒の特性に合わせた対応になっているかも考えた上で、今後も引き続き関わりを多く持ってほしい。
- 学校と家庭との連携はもちろんだが、専門職との連携も行い、1日でも多く登校できるような環境づくりができるとよい。
- 肯定評価ではない生徒の気持ちをどのように理解していくか。また、保護者に対しても、情報の共有がもっと必要ではないだろうか。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その2

令和4年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合		
							0	50	90						
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的学び	主体的・対話的で深い学びを目指した、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇生徒・教職員共に89%以上が肯定的な評価をしている。クロームブックを活用した授業を各教科で工夫し、教師が教えるだけでなく、生徒同士の意見交換も活発に行うことができるようになってきた。また、資料の提示や意見の取りまとめなども効率よく行うことができるようになり、生徒中心の学習活動が活発になり、主体的・対話的で深い学びを目指した、ねらいを明確にした分かる授業の実践が進んでいると考えられる。	生徒2-1	34	55	9	2	0	89			
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆「主体的」に学習に取り組むために、各教科の授業での課題を明確に提示し、生徒の思考をより深められる授業展開を進めていく。また、基礎・基本となる知識の理解が学力の土台となるため、小テストの継続や少人数での学び合い、教え合いの時間も確保していく。	保護者2-5	16	72	12	0	24	88			
					教職員2-1	15	85	0	0	0	100				
					〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の授業の状況										
	⑤	主体的な研修・自己研鑽	ICT活用を充実させ、授業内容と家庭学習を関連付け、個別最適な学習指導に努め、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇ICTに関する校内研修を定期的に設けた。EILSの基本操作やテスト作成の練習、Google クラウドでの教材配付や生徒との情報共有などの研修を行った。その結果、今まで以上に、授業でクロームブックを活用して多くの教員が授業を行っている。2年生の県診断テストでは、国語や英語が県平均を上回るなど具体的な成果も見られた。	生徒2-3	33	47	17	3	0	80			
			【目標値】 教職員の8割以上が肯定		◆ICT機器のより効果的な活用の模索を継続して行う。EILSやGoogleクラウドをはじめとし、クラウドを活用した授業やテスト作成などに教員が慣れ、生徒の学力を向上させるよう日々研修していく。	教職員1-2	45	55	0	0	0	100			
					〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・校内研修										
⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇昨年度は、肯定率が生徒は81%、保護者は69%と大きな差があったが、今年度は生徒は67%、保護者は69%と、肯定率の差が少なくなった。保護者はもっと学習してほしいと望んでいることは昨年度と同様であるが、生徒の肯定率が下がり、取組を不十分と捉える生徒の増えているため、ある程度客観的に自分を評価できるようになったと考えられる。	生徒1-2	24	43	23	10	0	67				
		【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆例年この項目はB評価となっている。今年度は、生徒と保護者の意識の差が少なくなった。家庭学習の習慣化には個人差があるが、自主学習ノートへの取組や定期テストに向けての取組を継続する中で、学習内容の質や量について改善していく機会を設けていく。また、その取組について考察することが必要であると考えられる。	保護者1-3	29	39	26	6	0	69				
					〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組										

【学校運営協議会における意見・提案等】

○クロームブックを活用した授業が定着し、主体的・対話的な学びが深まっていることをうれしく思うが、その一方で、そうではない生徒がいることも事実である。その生徒へのサポートをしっかりと行ってほしい。

○ICTを効果的に活用していることはとても良いことだが、家庭でのネット端末の使用法については、気を付ける必要がある。やるべきことは年々増えてはくるが、学習時間を確保するためにも、生徒には時間の使い方を身に付けさせる必要がある。

○将来が見えない段階では学習意欲は上がらないのではないかと。まずは、将来を考えるきっかけを与えていく必要があると思う。

○家庭での学習習慣について、不十分と自分を分析したことに対して、次のステップに繋げる方法を考えてほしい。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和4年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合					
													0	50	90			
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中気持生たちのよい言挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、自分の意志で行動できる生徒が育っている。	中間期 B	◇生徒・保護者・地域の肯定率は8割を超えているが、教職員は8割に満たなかったため、B評定とした。昨年度と比べると、生徒の4の評価は増えているのに対して、教職員の2の評価が増えており、「気持ちのよい挨拶」等の捉え方に、大きな違いが出てきた。部活動や学級などの集団としては「相手に伝わる気持ちのよい挨拶」ができていない場面も多いが、「個人でも・いつでも・誰に対しても」という点に課題がある。	生徒1-7	45	46	8	1	0	91						
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定		◆集会や学級活動等において、「挨拶の意義」や「相手に伝える挨拶」とはどのようなものかを考えさせる場を持ち、それを実践できるようにしていく。ウィズコロナでマスク着用の学校生活はまだ続くが、「相手に伝わる挨拶」を、教職員をはじめ大人も実践していくことで、挨拶の効果を実感できるようにすることも大切であるとする。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況												
	⑧	人権尊重・心の通い合い	価値観の違いを認め合い、互いの人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、特に保護者からの回答については、高い水準での結果となっている。今年度も委員会の活動を中心に、「あったかほっこりエピソード」の募集や学級での「いじめ追放宣言」の読み合わせ等、人権意識の向上を目指した活動を継続している。また、今年度は毎月の委員会活動時に、いじめ対策委員会を行い、一人一人の言動について学級全体で振り返る機会を増やしている。ただ、保護者の？が以前として多いため、啓発的な活動の必要性もある。	生徒1-11	34	53	9	4	0	87						
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆今後も、人権委員会が中心となって「あったかほっこりエピソード」の紹介や掲示等、学年・学級ごとに活動を広げながら進めていく。また、今年度も縦割りを中心としたブロック活動後の「ありがとうメッセージ」や「短い手紙」等、学年の垣根を超えた互いに伝え合う活動を継続して行っていく。今後も学級から学年、全校へと、それぞれの活動や振り返りを通して、認め合い、支え合い、感謝し合う環境・雰囲気づくりに取り組んでいく。また、HPを活用した啓発活動にも力を入れていきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果												
	⑨	道徳教育の充実	対話を重視した道徳科の授業を通して、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な態度や実践意欲が育てられている。	中間期 A	◇生徒と教職員がともに8割を超えているためA評定とした。生徒の中には、評価を2または1とした生徒もいる。また、教職員に比べて、生徒は4の評価の数値が高い。数値での評価だけではなく、文章での回答を求めることで、今後の取組につなげることができると考えられる。校訓や目指す生徒像を生徒・教職員が十分理解した上で、引き続き教育活動全体での道徳教育の充実が大切である。	生徒2-6	59	36	5	1	0	95						
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆回答方法を数値だけでなく文章回答にすることで、生徒がどの部分に成長が感じられたかや、課題があるのかということが明確になると思われる。また、「対話のある学び」の実現のために、道徳科の授業の事前・事後の活動や、ワークシートの工夫等も必要である。生徒も教職員も目に見えた形の変化があると、課題や改善策を見付けることにつながると考える。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容												

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 挨拶については、思春期である中学生がよくできていると思う。先生の評価が厳しいのではないかな。
- 相手に伝わる挨拶については、教職員をはじめ、大人が実践をしていく必要がある。
- 挨拶によってよい経験をする、自然な挨拶が身に付くのだと思う。やらされ感があるとできないことが多い。主体性は、「快」の経験の積み重ねだろう。
- 少し照れますが、家庭の中での「あったかほっこりエピソード」「ありがとうメッセージ」「短い手紙」を、家族間で1か月に1回紹介し合えると素敵だと思う。何よりも人権教育につながるのではないかな。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

令和4年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合							
													0	50	90					
IV 健全な体の育成と安全教育・防災教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期 A	◇教職員・生徒・保護者ともに8割を満たしていたため、評定をAとした。よりよい学校づくりのためのアンケートでは、8割以上の生徒が部活動を頑張りたいとしており、それが体力の向上の一つの要因だと考える。また、新体力テストの総合評価においても、A・B判定の割合が1年生60%、2年生35%、3年生50%であり、2年生の体力向上が課題である。	生徒1-6	42	38	15	5	0	80								
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	◆新体力テストの総合評価では、昨年度に引き続き、50m走・持久走・ハンドボール投げが種目別全国比較で低い割合を示している。しかし、A・B判定の生徒の割合は昨年度よりも増加しているため、今後も授業時の補強運動、部活動での効果的な実践を行っていきたい。	保護者2-8	34	63	4	0	10	96									
						教職員7-1	55	45	0	0	0	100								
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果														
	⑪	安全・安心な学校づくり	持続可能な防災教育の充実を図り、生徒自ら安全確保のために主体的に行動する態度を育成している。	中間期 A	◇生徒も教職員も9割以上が肯定しているため、評定をAとした。4月に全校で避難訓練を行い、1年生も避難経路の確認を行うことができた。6月には、1・2年生が防災学習会として、起震車体験に加えて防災対策課による運搬法の実習や講話を行った。また、3年生は修学旅行で北沢震災記念公園で震災の語り部講話を行うなど、各学年でも防災学習を進めることができた。	生徒2-7	69	27	4	0	0	96								
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	◆昨年度、新たな取組として全国防災小説コンテストや防災句会ライブを行い、防災への関心を大きく高めた。また、日頃の備えとして防災ポーチを身に着ける生徒も少しずつ増えてきている。今年度は、その活動を継続させるだけでなく、更によいものになるよう生徒と共に考える場を設定し、防災学習を充実させていく。防災小説については、より具体的な内容となるよう、昨年度の他校の取組も参考にしながら進めていきたい。	教職員7-2	45	55	0	0	0	100									
					〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・避難訓練・防災学習の様子															
⑫	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期 B	◇生徒の評価が8割に満たないため、評定をBとした。毎月の健康チェックでも夜11時以降まで起きている生徒が3割程度見られる。ネット端末の使用時間が長く、夜1時以降に起きている生徒も見られる。そのことが就寝、起床、朝ご飯などに起因していると考えられる。	生徒1-9	36	40	18	6	0	76									
		【目標値】 生徒の8割以上が肯定	◆ネット端末の使用については、1学期に「命に関する教育講座」や「情報モラル教室」などで、学習させることができた。今年度も委員会・生徒会を中心に、集会等で生徒自身に考えさせ行動するように取り組ませていきたい。学校だけでは難しい問題であるため、保護者の協力を得られるような工夫が必要である。就寝時間や朝食を食べてこない生徒は固定化しているため、健康チェック時において、クロームブックを活用した生徒への効果的な個別的働きかけを、工夫し継続して行う。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生活チェックカードの結果																

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 運動の得意な子、不得意な子がいることは仕方のないことだが、中学2年生の体力テストの評価が低いことが気になる。
- 日頃からの防災教育が生徒にも浸透していると思う。ただし、理論的には理解できても、いざ実践の場になると、果たして思った通りの行動ができるのだろうか。やはり「備えあれば患いなし」の言葉通り、まずは「自助」から、命の尊さを受け止めさせることが大切だろう。
- ネット使用のマナーについては、数多く情報提供、情報共有の場を設けているため、生徒自身が意識できているのではないだろうか。
- 生徒自身による早寝・早起きが本当にできているのか、親に起こされるのであれば、早起きとは言えない。自分からできているかどうかの調査をして、対策を考えてみてはどうか。
- 自分自身を客観的に捉えるためにも、心も体もバランスよく生活するための家庭でのルールを、生徒につくらせてもよいのではないか。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

令和4年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合					
													0	50	90			
V 家庭や地域とともにある学校づくり	13	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇教職員・地域ともに目標値を上回っているため、評定をAとした。1・2年生の防災学習会では、栄町地区の方も起震車体験に参加していただいた。また、2年生の福祉学習では社会福祉協議会や船越保育所の園長先生による講話もあり、地域の取組について学ぶ機会があった。1年生の宿泊研修や鹿島清掃、3年生の修学旅行に向けた学習でも、地域についての学習や活動を知り、人とのつながりを意識した学習を行うことができた。	教職員4-2	25	75	0	0	0	100						
			【目標値】 教職員・地域の8割以上が肯定		◆2学期以降も様々な行事がある。特に3年生は職場体験学習も予定されており、活動を通して地域や人とのつながりを感じられる活動ができるよう取り組む。また、全校で取り組む防災学習では、地域で生活する一員として何ができるかを考えさせたい。1学期の清掃ボランティアは、コロナ感染症予防のため参加できなかったが、今後も地域の方とのボランティア活動もできる範囲で行っていききたい。	地域2-2	25	72	2	0	16	97						
	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後の反省																	
14	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者、教職員ともに目標値を上回っているため、評定をAとした。個別の指導計画を作成し、職員会議や校内教育支援委員会などで共通理解を図った。苦手改善の視点だけではなく、持ち味や興味・関心を生かす視点を持って共通理解を図ることができたことは、生徒との人間関係形成に役立ち、生徒の成長に有効であったと考える。	保護者2-7	35	65	0	0	43	100							
		【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定		◆授業においては、合理的配慮の視点から誰にでも分かりやすい授業づくりを目指していく。その際、生徒に対応する支援員についても授業によって入れ替わるなど、弾力的に対応していく。また、非常勤講師(不登校等対策)による生徒の状況に応じた効率的な支援を、今後も継続して行う。そして、卒業後の生活を見据えて、保健福祉課やおれんじくらぶ、愛南町子ども支援センターとも連携していきたい。	教職員5-1	75	20	5	0	0	95							
〈自己評価アンケート以外の評価材料〉																		
15	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、学校運営協議会の協力の下、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者・地域の9割以上が肯定的回答であるため、評定をAとした。HPの日々の更新や御荘中通信、各種「たより」の定期的な発行による情報発信の様子が、保護者・地域の肯定的回答に表れている。今後もクロームブックを活用しての、生徒と学校との双方向のコミュニケーションやHPの更新を継続し、情報発信に努めていく。	保護者2-9	47	47	6	0	2	94							
		【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上		◆1学期の校内研修の中で、職員全員がHPの記事の更新ができることを目標とした実技研修を行った。充実したHPの公開を目指して、個々の職員による発信を積み重ねていく。また、常に危機管理意識を持つとともに、研修を継続させて質の高い情報発信を目指していきたい。	地域2-3	50	48	2	0	2	98							
〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・HPの閲覧状況																		

【学校運営協議会における意見・提案等】

- 自分たちの住んでいる愛南町は「こんなに素敵なんだ」ということを、地域学習を通して学んでほしい。
- 学校での取組を積極的に発信することで、地域の皆様にも中学生がどのようなことにチャレンジ、クリエイティブしているか伝わっていると思う。また、地域の皆様の協力を得ながら学べる環境があり、愛南町を好きになる第一歩に繋がっていると思う。
- 学校の取組については、HPや学校通信等でよく分かる。ただ、地域との連携を考えたときに、情報は学校側からだけの一方通行である。地域とつながるためにも、地域の方の活動を入れてコメントをいただいたり、学校から何かの協力を依頼したりしてみるなどしていてもよいのではないか。